

科目区分	専門分野	授業科目	成人・老年看護学援助論Ⅴ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30 時間)	開講年次	2年次
目的: 機能障害のある成人・老年期の対象への看護を実践できる基礎的能力を養う。 目標: 1 脳・神経機能に障害のある患者の看護が理解できる。 2 認知症のある患者の看護が理解できる。 3 運動機能に障害のある患者の看護が理解できる。 4 感覚機能に障害のある患者の看護が理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 脳・神経機能および認知機能に障害のある患者の看護	14	1 脳・神経機能に障害ある患者の特性 1) 患者心理 2) 身体傾向 3) 起こりやすい問題と生活への影響 (生命維持活動調節機能障害、運動・感覚機能障害、言語機能障害、高次脳機能障害) 2 脳・神経機能障害に応じた看護 1) 脳血管障害(大脳、小脳) 2) 脳腫瘍(大脳、小脳) 3) 感染症(脳炎、髄膜炎) 4) 頭部外傷 5) 脊髄損傷 6) 重症筋無力症 7) Guillain-Barré<ギラン・バレー>症候群 8) 筋萎縮性側索硬化症<ALS> 9) 治療に伴う看護 (1) 開頭術、穿頭術、血管バイパス術 (2) 血管内治療 (3) 脳室ドレナージ術、脳室－腹腔<V-P>シャント術 (4) 低体温療法 3 検査を受ける患者の看護 1) 脳血管造影 2) 脳波検査 4 認知機能に障害のある患者の看護 1) 認知機能に障害のある患者の特性 (1) 患者心理 (2) 身体傾向 (3) 起こりやすい問題と生活への影響 2) 認知機能の障害に応じた看護 (1) せん妄	
2 運動機能に障害のある患者の看護	8	1 運動機能に障害のある患者の特性 1) 患者心理 2) 身体傾向 3) 起こりやすい問題と生活への影響 (姿勢機能障害、移動機能障害、作業機能障害) 2 運動機能障害に応じた看護 1) 関節リウマチ 2) 椎間板ヘルニア 3) 四肢切断後 4) 骨折(大腿骨頸部・転子部骨折、脊椎圧迫骨折) (1) ギプス固定	

		(2) 牽引法 5) 変形性膝関節症、変形性脊椎症 (1) 膝関節鏡、人工関節置換術 3 検査を受ける患者の看護 1) 脊髄造影、椎間板造影 2) 筋生検
3 感覚機能に障害のある患者の看護	3	1 感覚機能に障害のある成人・老年期の看護 1) 感覚器に障害のある成人・老年期の患者の特性 (1) 患者心理 (2) 身体傾向 (3) 起こりやすい問題と生活への影響 (視覚障害、聴覚障害、嗅覚障害、味覚障害、触覚障害) 2 感覚機能障害に応じた看護 1) 視覚障害(緑内障、白内障、網膜症)、中途視覚障害 (1) 眼底光凝固療法、網膜離治療、眼内レンズ挿入術 2) 難聴 3) Ménière<メニエール>病 4) 副鼻腔炎 5) 末梢神経障害 6) 治療に伴う看護 (1) 鼓室形成術 (2) 小線源治療 3 検査を受ける患者の看護 1) 経鼻内視鏡検査 2) 味覚検査
4 皮膚障害のある患者の看護	4	1 主な皮膚障害 2 褥瘡管理 1) 褥瘡発生のリスクアセスメントと予防 2) 褥瘡のアセスメントと処置 3) 除圧・体位変換に関する器具の種類と選択
	1	試験
評価方法	筆記試験、レポート等	
テキスト	医学書院 成人看護学〔7〕 脳・神経 医学書院 成人看護学〔10〕 運動器 医学書院 成人看護学〔12〕 皮膚 医学書院 成人看護学〔13〕 眼 医学書院 成人看護学〔14〕 耳鼻咽喉	
参考資料	必要に応じて適宜提示する 医学書院 老年看護学 医学書院 老年看護 病態・疾患論	
履修上の留意事項	科目を履修するにあたり、解剖生理学、疾病治療論を十分復習して臨むこと。 予習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。	
備考		

科目区分	専門分野	授業科目	老年看護学援助論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次
目的: 加齢に伴う変化を考慮した看護および症状別看護を実践できる基礎的能力を養う。 目標: 1 加齢による身体的、精神的、社会的変化を踏まえた看護を理解できる。 2 認知症のある患者の看護が理解できる 3 健康障害のある高齢者への看護の展開を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 加齢による身体的、精神的、社会的変化を踏まえた看護	8	1 老年症候群の特徴と看護 1) 熱中症 2) 脱水 3) 発熱 4) 腰背痛 5) 浮腫 6) 睡眠障害 7) 転倒・骨折 8) 排尿障害 9) フレイル (1)フレイルの基準と原因 (2)サルコペニア (3)治療と予防	
2 認知症のある患者の看護	8	1 認知症と社会制度 1) 認知症高齢者数の推移 2) 認知症をとりまく制度の変遷 2 認知症の看護 1) 加齢による病態と要因 2) 環境と行動・心理症状 3) 認知機能の評価 4) 予防治療、療法的アプローチ 5) コミュニケーション 6) 療養環境の調整 7) 急性期一般病床での援助 8) 地域で暮らすための援助 9) 家族への支援とサポートシステム	
3 老年期における看護過程	13	1 老年期にある患者の看護過程の展開 1) 老年期の患者事例を用いた看護過程の展開	
	1	試験	
評価方法		筆記試験、レポート等	
テキスト		医学書院 老年看護学 医学書院 老年看護 病態・疾患論	

参考資料	メディックメディア 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア 看護がみえる vol.5 対象の理解 I 学研 看護過程に沿った対症看護(病態生理と看護のポイント) 学研 疾患別看護過程の展開 照林社 基準看護計画 臨床で良く出合う看護診断と潜在的合併症 その他、必要に応じて適宜紹介する。
履修上の 留意事項	科目を履修するにあたり、解剖生理学、疾病治療論を十分復習して臨むこと。 予習をして授業に臨むこと。 レポート課題や演習は積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備 考	